

様式

| | | | | | |
|-------|--|-------|----------------|--|--------------|
| 技術名称 | 津波に対する防波堤港内側マウンドの保護工法 | 技術の分類 | 工法 | NETIS登録の有無 (有場合はNETIS番号) | 無 |
| 会社名等 | 株式会社不動テトラ | 担当者 | 松本朗 (マツモト アキラ) | 連絡先 | 029-831-7411 |
| 技術の概要 | 津波に対する防波堤の粘り強さを確保するためには、港内側マウンドを腹付石で嵩上げし、表層を津波の越流に対して十分安定となる被覆材で被覆することが有効である。そこで、被覆ブロック、消波ブロック、袋型根固め材による方法を提案する。 | | 添付資料 | パンフの有無 | 無 |
| | | | | その他の資料 | 発表論文 |
| 技術の特徴 | <p>○被覆ブロックによる構造 施工が容易で経済的である。津波の規模に応じて、ブロックの質量を自由に選択できる。ブロックの連結、据付方法の工夫など、ねばり強さを高める方策が豊富である。法尻のブロックを強制的に固定することで安定性を向上できる。</p> <p>○消波ブロックによる構造 1個のブロックが被災しても、かみ合わせを有する構造であるため、被害が急速に周囲へ広がることはない。そのため、マウンド本体へ被害が及ぶことが少ない。</p> <p>○袋型根固め材による構造 大型の石材を必要としない。可撓性が大きく底面の不陸にも十分対応でき水中作業が簡便である。急速に大量の施工が可能である。連結、据付方法の工夫など、ねばり強さを高める方策が豊富である。</p> | | その他 | <p>・添付資料(土木学会での発表論文)</p> <p>(1)H24年度海洋開発シンポジウム</p> <p>(2)H24年度海岸工学講演会</p> <p>(3)H25年度海洋開発シンポジウム(投稿中)</p> <p>(4)H25年度海岸工学講演会、申込書(投稿中)</p> | |